

# ICT 教育による学習効果について

氏名 浅野成美  
指導教員氏名 上村浩

## 研究背景

令和2年から適用されている新学習指導要領を受けて、文部科学省による「GIGAスクール構想」が始まった。教科指導におけるICT活用の効果については、これまでの調査研究などから、児童生徒の学力向上に高い効果があることが明らかになっている。しかし、先行研究ではICT活用における重要性を主張するものがある一方で、阻害要因を明らかにしているものも散見される。

## 研究目的

本研究では、ICT教育による学習効果について、アンケート調査を実施しこれを検討することを目的とする。特に、生徒がICTを利用した学習環境において、より充実した学習体験を得ることができているのかについて明らかにする。

## 研究方法

本研究では、ICT教育環境が整備されている県内の中学校の生徒を対象に、アンケート調査を実施した。調査の目的は、教育現場のICT活用の実態と現状、学習効果、ICT機器の用途、ICT機器を使用した授業に対する生徒の意見を明らかにすることである。

## 調査結果

本研究では、高知県内の中学生 174 名を調査対象とした。特筆すべき点としては、タブレット端末を使用することで学習効果を実感している生徒が少なかったことである。また、タブレット端末の具体的な用途は 174 名のうち 155 人 (89.1%) が「調べもの」と回答し、「タブレットを利用していない」「あってもなくても変わらない」と回答した生徒もいた。

## 結論

本研究の主要な結果から、生徒がICTを利用した学習環境において、現状では、充実した学習体験を十分に得ているとは言えない。現状として、教員のICT活用指導力に対して生徒からは不満の声が上がっており、さらにタブレットの用途の大半が「調べもの」である。このような状況を踏まえると、学習指導要領に定められている教科の学習目標の達成と同時に、情報活用能力の育成する（文部科学省, 2009）という目標を、現状においては十分に達成しているとは言えない。